

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木3	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	フランス語Ⅲ (FrenchⅢ)		
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	2P18・19+2F27・28	科目分類	外国語科目(フランス語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:松藤 英恵/Eメールアドレス:cinema_naga2@hotmail.com /研究室:全学教育非常勤講師室 /オフィスアワー:木曜日 14:30~15:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:1年次に引き続き、フランス語の基礎を身につけること、自分に関する表現も含め、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目標とします。また、生きたフランス語に親しめるよう、講義ではビデオや日用品、写真などの教材を利用し、口頭やジェスチャーを使つての表現などにも留意します。また、フランスの政治・経済・社会・歴史・文化・産業等の紹介も行います。</p> <p>授業方法:教科書、オリジナルのプリント教材の他、ビデオやCD、時事問題等の教材を毎回使用しながら授業を進めます。</p> <p>授業到達目標:1日の生活やヴァカンスの過ごし方等を、口頭・筆記の両方で表現できるようになることが最大の目標です。文部科学省フランス語検定4級に合格できるよう指導します。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要):①練習問題オリジナルプリントを使つての文法解説と筆記演習、②教科書とCDを使つての発音練習、③同じく教科書とCDを使つてのヒアリング練習、④教科書及びオリジナルプリント、ビデオ教材を使用しての実践的な会話演習、⑤日用品、ビデオ教材、時事問題他様々な資料を使つてのフランスの政治・経済・社会・歴史・文化・産業等の紹介、の5つの要素を網羅して授業を進めます。</p> <p>第1回 オリエンテーション、フランス文化に親しむ 第2回 1年次の文法の復習(近接未来と近接過去を中心に) 第3回 " (直接目的格と間接目的格を中心に) 第4回 " (代名動詞を中心に) 第5回 第6課 中性代名詞 y, en① 第6回 " " en②, le、強調構文 第7回 " シャモニーの伝統料理/提案をする表現/買い物の表現/道順の表現 第8回 第1課 avoirを助動詞に取る直説法複合過去形 第9回 " être " " 第10回 " 代名動詞の複合過去形と過去分詞の一致 第11回 " アルザス地方の文化/レストランでの表現 第12回 第0課 直説法単純未来 第13回 " 手紙・メールの書き方/別れの表現 第14回 口頭試験/インタビュー形式で、自己紹介、1日の生活、ヴァカンスの過ごし方を答える力を身につける。 第15回 定期筆記試験/文法の定着、長文読解、DICTEEの力をつける・自己紹介、1日の生活を記述する・ヴァカンス先から友人に送るメールを書く力を身につける。</p> <p>※注意!:上記のEメールアドレスには、一部の携帯電話を使つての送受信が出来ないことがあります。送受信できない場合は、別の携帯電話或いはパソコンのアドレスから送信し直して下さい。</p>			
キーワード	フランス語を使つて、世界にはばたこう!		
教科書・教材・参考書	教科書:『Elle est gourmande!2(彼女は食いしん坊!2-フランス美食探訪の旅-)』(朝日出版社) なお、1年時に使用したテキストを、文法の復習他参考資料として使用します。 辞書:仏和辞典を1冊、出来れば和仏辞典も購入すること。出来るだけ新しいもの。電子辞書は不可。 旺文社『ブチ・ロワイヤル仏和辞典』『ブチ・ロワイヤル和仏辞典』『ロワイヤル仏和中辞典』がお勧め。授業中に指示します。 なお、配布プリント、提出レポート等はすべてA4サイズに統一します。		
成績評価の方法・基準等	期末定期筆記試験の成績 50% 期末口頭試験の成績 40% 授業への取り組み方・意欲等 10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	繰り返し復習することによって、フランス語を確実に自分のものとして定着させましょう。 日本のテレビや新聞、雑誌、インターネット等を使つて、フランス語圏の様々な時事問題や文化などの情報に、積極的に触れましょう。		